

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	RN	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3	派遣国	台湾
派遣大学	国立台湾科技大学		
期 間	2025 年 8 月 26 日～ 2025 年 12 月 22 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	×	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (90000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	60000 円	朝/昼食それぞれ 500 円、夕食 1000 円
学用品購入費	2000 円	9 月に 4000 円位の中国語の教科書購入、その他は文房具やコンビニでのプリント代金
交通費	4000 円	雨の日の MRT 代と遊びに行った時の交通費
交際費	6000 円	
その他	5000 円	ドラッグストアでの買い物など

合計

77000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

概ね安全だと感じた。ネットの情報によると Shilin 夜市などで観光客を狙ったスリがあるらしいが、目撃したことはない。

しかし 12 月には中山駅で無差別殺人が起きており、その後学校近くの Guting 駅でも危険な事件があったそう。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(4) ヶ月間	保険料	(39240) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**台北市、大安区**)

台北市大安区は、市の中心部に位置する行政区の一つである。区域内には大安森林公園があり、都市部における貴重な緑地空間として市民に利用されている。また、複数の MRT 路線が通っており、台北市内外への交通アクセスに優れている。

国立台湾大学、国立台湾科技大学、国立台湾師範大学をはじめとする教育機関が集積しており、学術的・文化的な雰囲気が形成されている。さらに、ショッピングモールなどの商業施設や飲食店も多く、生活利便性の高い地域である。

【学業編】

1. 大学情報

大学	国立台湾科技大学	所在地	No. 43, Sec. 4, Keelung Rd., Da'an Dist., Taipei City 106335, Taiwan
最寄空港	松山空港	空港からの距離	6.3km
空港⇄大学	(MRT) *移動手段		
学生数	Undergraduate : 5806 Master : 4430 Doctor : 1038	留学生数	961
学部	College of Engineering 1. Department of Mechanical Engineering 2. Department of Materials Science and Engineering 3. Department of Civil and Construction Engineering 4. Department of Chemical Engineering College of Electrical Engineering & Computer Science 5. Department of Electrical Engineering 6. Department of Electronic and Computer Engineering 7. Department of Computer Science and Information Engineering College of Management 8. Department of Industrial Management 9. Department of Business Administration 10. Department of Information Management College of Design 11. Department of Industrial and Commercial Design 12. Department of Architecture (<i>Note: undergraduate design/architecture programs</i>) College of Applied Sciences 13. Department of Applied Foreign Languages College of Liberal Arts and Social Sciences 14. Department of Humanities and Social Sciences (<i>often part of core/general education offerings across disciplines</i>) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Applied Foreign Languages (AFL) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		・ Gender, Sexuality, and Culture			・ Mandarin Chinese Practical (Level 1)
午後	・ 英語スピーキングクラブ			・ English for Presentations ・ University Social Responsibility Advocacy: Self Media Practice and Content Development	・ Discussion on International Affairs in English

3. 履修内容

科目	Gender, Sexuality, and Culture		
履修期間	9 月～12 月	単位数	2
授業内容／形態	<p>ジェンダー問題を言語の視点から議論していく授業。台湾における状況だけでなく、ヨーロッパなど他国の事例にも触れている。自分のジェンダーアイデンティティについて話す場面も多い。</p> <p><授業形態> 教授がスライドを使ってレクチャー+5 人程度のグループでプレゼン</p> <p><学生数> 約 30 人</p>		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	総合講義（現代社会とジェンダー）	
	単位数	2	
	担当教員	江上園子・佐藤響子	

科目	English for Presentations
----	---------------------------

履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	英語で audience に響くビジネスプレゼンテーションをする技術を身につけるための授業。プレゼンテーション冒頭の挨拶や図表の説明の仕方などを学ぶ。14 回の講義の中で、6 回プレゼンテーションを行う機会がある。 <授業形態> 教授による講義、受講生によるプレゼンテーション <学生数> 7 人		
成績	A-		
YCU 振替予定	科目	なし（申請していないため）	
	単位数		
	担当教員		

科目	University Social Responsibility Advocacy: Self Media Practice and Content Development		
履修期間	9 月～12 月	単位数	2
授業内容／形態	大学生の自発的な行動を促すようなメディアについて考える授業。ポッドキャストなどを鑑賞し、情報発信のコツについて学ぶ。最終的には私たち自身も、大学生の自発的な行動を促すような写真やポッドキャスト、ビデオを作成する。 <授業形態> 講義、3～4 人でのグループワーク <学生数> 約 20 人		
成績	A+		
YCU 振替予定	科目	なし（申請していないため）	
	単位数		
	担当教員		

科目	Mandarin Chinese Practical (Level 1)		
履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	中国語（繁体字）を学ぶ授業。Level 1 なので、日常会話レベル（自己紹介など）が中心。テキストとワークブックを使い、4 技能を総合的に伸ばすことが求められる。毎週小テストがあり、中国語の書き取りを行う。 <授業形態> 一斉授業＋ペア/グループワーク <学生数> 約 20 人		
成績	A+		
YCU 振替予定	科目	なし（申請していないため）	

	単位数	
	担当教員	

科目	Discussion on International Affairs in English		
履修期間	9月～12月	単位数	2
授業内容／形態	<p>現在の国際情勢と歴史的な国際情勢の両方に重点を置き、地政学、国際関係、世界経済、人権、環境問題など、幅広いトピックについて勉強する。各テーマが終わるごとに英語でディスカッションも行い、地球規模の課題に関する理解と分析力を高める。</p> <p><授業形態> 教授による講義、ネットフリックス番組鑑賞、グループディスカッション、2～4人でのグループワーク</p> <p><学生数> 約40人</p>		
成績	A+		
YCU 振替予定	科目	なし（申請していないため）	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

私はこの留学を通して、2つの目的を達成できたため、非常に満足している。留学前には、①外国語で話すことに慣れること、②多様な価値観に触れ自分とは異なる部分を理解しようとする姿勢を身に付けること、の2点を目標としていた。

①**外国語で話すことに慣れる**：これは授業や友人との会話を通して実行することができた。私は日本人のルームメイトなどもおらず、この4か月間ほぼすべての時間を日本が伝わらない人と過ごした。その中で最初は自分の言いたいことを言えずにもどかしさを感じる場面も多かったが、日々新しい表現を学ぶことにより少しずつ言えることが増えていったと感じている。しかしながら、自分より TOEIC の低いフランス人の友人が流暢に会話する様子などから、自分は TOEIC などのテストで点数を取るための勉強に偏ってしまっていたことにも気づかされた。現在はこの経験から、実践的な語学能力を高めるように意識している。

②**多様な価値観に触れ自分とは異なる部分を理解しようとする姿勢を身に付ける**：これは思ったよりできたと思う。なぜなら留学前は台湾人と交流することだけを想定していたが、NTUST に留学してみると、インドネシアなどからの正規留学生や同じように交換留学をしているフランス、ドイツ、スウェーデンなどといったヨーロッパからの学生と交流することが多かった。その中で、様々な国がミックスになったグループワークでも積極的にコミュニケーションをとり行動を起こす現地学生や、自分に対して積極的に質問をしてくれる友人の姿を見て、相手に偏見を持たずに積極的に相手を知ろうとすることで関係が深まることを学んだ。この経験を通して、これまで無意識に自分の価値観を基準に物事を捉えていたことに気づき、相手の背景や考え方を前提に理解しようとする姿勢へと変化した。

さらに、台湾という新しい土地で、これまでとは異なる食文化に触れ、日本語が通じない不便さを感じながら生活する中で、自分はこのような刺激的な環境に身を置くことが好きであり、今後も新しい国で暮らしながら、わくわくする人生を送りたいと実感した。また、同じようにグローバルに生きたいと考える韓国人の友人や、国をまたいで挑戦を続けるフランス人の友人、オーストラリアの大学院進学を目指して IELTS7.5 を取得しながら台湾で生活する台湾人の友人など、それぞれが自分の目標に向かって主体的に行動している姿に触れた。彼らとの交流を通して、日本の枠にとらわれず自分のやりたいことに向き合う大切さに気づくとともに、その姿に背中を押され、自分も主体的に挑戦していきたいという思いが一層強まった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

本交換留学で得た経験を、今後の学業および将来の進路において、主に三つの点で生かしていきたいと考えている。

①グローバルな仕事

本留学は大学三年次後期という就職活動の時期と重なっており、将来の進路について考えながらの留学となった。その中で、幼少期から持っていた海外への関心や語学学習への意欲が、自身の一時的な興味ではなく、価値観の中核を成すものであることに気づくことができた。留学を通して培った異文化理解力、英語によるコミュニケーション能力、そして多様な背景を持つ人々と協働する姿勢を生かし、将来は国や文化を越えて人と関わるグローバルな仕事に携わりたいと考えている。海外駐在にも積極的に挑戦したい。

②相手の立場に立って考える姿勢の継続

留学中、文化や宗教、価値観の異なる学生と共にグループワークや課外活動を行う中で、相手の背景を踏まえて言葉を選び、意図を丁寧に伝えることの重要性を強く実感した。一方的に自分の考えを押し付けるのではなく、相手の立場や感じ方を想像しながら対話することが、円滑な協働につながると学んだ。今後もこの経験を生かし、学内外を問わず、他者の視点を尊重したコミュニケーションを実践していきたい。

③言語学習の継続と方法の改善

本留学を通して、これまで TOEIC 対策を中心とした学習に偏っており、実践的なスピーキング能力が十分でなかったことを自覚した。今後は IELTS などを活用し、今まで学んできたボキャブラリーなどを実際に自分で使えるものにしていきたい。また英語に限らず、中国語や韓国語についても、実践を意識しながら学習を継続していきたい。

以上のように、本留学で得た学びを、今後の進路選択や自己成長に継続的に結びつけていきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

①留学目的の明確化

なぜ留学をするのか、留学を通して自分がどうなりたいのかを事前に言語化しておくことで、留学先大学の選択がしやすくなり、留学中に迷う場面も減ると感じた。私は出願時に自分をよく見せようとするあまり、本音の留学目的を十分に整理できておらず、留学中になぜ来たのか分からないと感じてしまった時期があった。提出用に整えた文章だけでなく、削られた殴り書きのような言葉で綴った留学への思いを残し、留学中に見返すことで、より実りある留学にできると考える。

②事前の情報収集

私は交換留学先を選ぶ段階でも、留学先決定後の準備段階でも情報収集が不十分であり、もっと調べていれば、より自分に合った大学やアパートを選べたのではないかと感じている。同じ国の大学であっても、留学生の人数や出身国、学生の雰囲気、放課後の遊び場などは大きく異なる。例えば、国立台湾科技大学はテクノロジー系大学であるためドイツとフランス出身の交換留学生が非常に多い点、インドネシア人などの正規留学生の受け入れにも積極的である点、提携校である NTU や NTNU の授業を履修できる点が特徴である。留学前は忙しい時期ではあるが、情報収集は行えば行うほど自分のためになると思う。

③自分から行動する姿勢

これは私が特に「やって良かった」と感じている点であり、自ら行動することで新しい人や学びと出会うことができた。私は留学を通して多くの人と出会い、価値観を広げたい、より優しい人間になりたいという目標を持っていたため、積極的に人と関わることを意識していた。具体的には、学生団体主催のウェルカムパーティーに参加したり、一人でも興味のある授業を履修してその場で友人を作ったり、空き時間があれば自分から連絡を取って交流するようにしていた。留学生活は受け身でいても自然に充実するものではないため、国籍にとらわれず、同じように新しい出会いを求めているかもしれない人に声をかけてみてほしい。また、学期開始前に SNS など大学名を検索し、部活動や学生団体を調べておくことも有効だと感じた。

④言語学習

私は留学前に TOEIC 学習に力を入れていたが、実際に留学してみるとスピーキング力の不足を強く実感した。確かにリーディングやリスニングの力は大いに役立った一方で、事前にスピーキング練習もしていれば、より円滑にコミュニケーションが取れたと感じている。時間に余裕のある人は、ぜひスピーキングにも取り組んでほしい。ただし、言語に自信がなくても引込み思案になる必要はなく、ジェスチャーや翻訳ツールを使いながら分かり合おうとする姿勢こそが最も重要だと思う。実際、私の周囲の留学生や現地の学生は、言語のミスに対して非常に寛容であるように感じた。